

～戮力協心～

NO.14

2022年11月10日

発行責任者 池尻 和寛

編集責任者 情 宣 部

組合：青年部員はどこで報われるのか？ 会社：その都度やってきているつもりである！

組合：口だけで形としてはいいではないか！今年末手当がその時であり「2020年度の年末手当より厳しい」とはもっての外だ！！

2022年度年末手当第3回交渉～会社の考え～

中央本部は11月10日に「2022年度年末手当第3回交渉」を行なってきました。

会社の考え

- ・景気回復の兆しが見えない中、社員の奮闘により列車が運行されている事に感謝。
- ・対前年100%を超えているが、昨年の災害は27億円の減収で、今回は10億円ということから対前年での比較は参考になりにくく、非常に厳しい数字が予想される。
- ・物価上昇による生活のひっ迫について、理解するが原則期末手当は業績という考えであり、経営状況が厳しいことから組合の要求に応えることは難しい。
- ・コロナ対策等の職場環境改善について、必要なものには投資をするが、不要不急なものには投資しない。
- ・前回の交渉の内容を社内議論にかけた結果、現時点では『2020年度の年末手当より厳しい』というのが会社の考え方である。

組合の主張

- ・社長は職場で一体何を見てきたのだ！職場の苦勞が全く反映されていない！
- ・JR貨物のブランディングに傾注する力量と、職場実態とのギャップが青年部員の怒りとして噴出している。
- ・職場からは「いつもより頑張って働き、心身共に限界に近付いている」言われている。この苦勞が会社経営陣はわかっていない！
- ・会社はやる気とモチベーションが大切と言うのなら、今が大きな転換点であり満額出すべきだ！
- ・会社の原動力は社員であり組合員だ！計画達成にむけて取り組むのは我々である！
- ・「物価上昇は無視できない」と言っておきながらこの考え方では話にならない！青年部員の生活を会社は保障し、責任を持つべきである！

**会社は私たちの日々の苦勞と生活の保障を「業績が悪い」ということで加味しようとしません！
これから山場ゾーンに入ります！職場一体となって声をあげて突き上げよう！！**